2024 年度「全腎協ニューズレター」第５号
全腎協事務局作成（2025. 2. 25）

■ 透析患者数 2 年連続で減少へ　－ 2023 年末慢性透析患者数 34 万 3,508 人 －

日本透析医学会は、2023 年末現在における透析患者数の調査結果「わが国の慢性透析療法の現況」を公表しました。

慢性透析患者の全体数は、前年から 3,966 人減少し 34 万 3,508 人でした。2 年連続しての減少です。新規に透析を始める導入患者数もまた前年と比較し 919 人減少し 3 万 8,073 人でした。

糖尿病性腎症は持続的に減少

新規導入患者の原疾患は、前年同様糖尿病性腎症が第 1 位、腎硬化症が第 2 位でしたが、糖尿病性腎症の割合は近年持続的に減少（前年比 0.4 ポイント減）している一方、腎硬化症の割合は増加（同比 0.6 ポイント増）しています。

平均年齢 70.09 歳、75 歳以上で増加

患者全体の平均年齢は、70.09 歳でした。高齢化は続いているものの、70 歳未満の患者数は 2017 年から、75 歳未満も 2021 年から減少しており、75 歳以上の患者数が増加しています。

最長透析歴は 53 年 1 か月でした。

（2023年末現在）

わが国の慢性透析療法の現況（要約）	
慢性透析患者総数	343,508人 （3,966人減　1.2％減）
新規導入患者数	38,764人 （ 919人減　2.4％減）
新規導入患者の原疾患	
1 糖尿病性腎症	13,844人（38.3％　0.4ポイント減）
2 腎硬化症	6,957人（19.3％　0.6ポイント増）
3 原疾患不明	5,248人（14.5％　0.5ポイント増）
4 慢性糸球体腎炎	4,901人 （13.6％　0.4ポイント減）
年末患者の平均年齢	70.09歳 （0.22歳増）
新規導入患者の平均年齢	71.59歳 （0.17歳増）
最長透析歴	53年1か月

日本透析医学会調べ

■ 透析アミロイド症に「オンラインＨＤＦ」と吸着型血液浄化器「リクセル」併用が承認

社会保険診療報酬支払基金関東ブロック*審査委員会は昨年 4 月、同年 8 月診療分から「オンラインＨＤＦにおけるリクセルの併用算定を認める」とする保険診療審査結果を明らかにしました。　＊茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県

透析が長期にわたると、アミロイドという物質が体内の骨・関節に沈着し、関節の痛みやしびれなど運動障害を引き起こします（透析アミロイド症）。治療法の一つとして、透析に吸着型血液浄化器「リクセル」を取り付けて行うと、アミロイドの原因物質であるβ2 ミクログロブリンが除去され、透析アミロイド症が軽減されるといわれています。

これまで「リクセル」が使用できる透析は、血液透析（ＨＤ）と解釈され、オンラインＨＤＦ（血液ろ過透析）を受けている患者は「リクセル」との併用が保険診療として認められず、痛みに苦しむ透析患者からは併用を認めてほしい、という切実な声があがっていました。

今回の保険診療審査結果は、関東ブロック内にとどまらず全国で共有されるべき事案です。透析アミロイド症に悩むる患者の中で、かつて「オンラインＨＤＦ」と「リクセル」の併用ができず治療をあきらめていた方がいれば、下記通知を参考に改めて主治医と相談なさってみてください。

なお、「リクセル」を使用した透析はどの患者も受けらるわけではなく、▼手術や生検によってβ2 ミクログロブリンによるアミロイド沈着が確認されていること、▼透析歴が 10 年以上であり手根管開放術を受けていること、▼画像診断により骨嚢胞が認めらること、のすべてを満たしている必要があります。また、「リクセル」の算定期間は 1 年を限度という条件もあります（再使用可）。

参考：「関東ブロックにおける審査上の取扱い　（ブロック取決）のご案内」
https://www.ssk.or.jp/shibu/13_tokyo/index.files/060501_kanto_bl.pdf